

若い人が働きたい木造事務所完成

見学会実施 ナカザワ建販

和泉中央



木造新事務所の外観

ナカザワ建販(株)(社長・中澤秀紀氏)「和泉中央新事務所完成見学会」が9月13日、14日の両日、5回に分けて挙行された。見学会を主導したのは大規模木構造建築のSMB建材(株)。和泉中央と言っても知らない人も多いが大阪府和泉市あゆみ野、泉北1号線道路に沿って走る泉北高速鉄道の駅名で言えば泉ヶ丘・梅・光明池の次が和泉中央、南海難波から35分である。大阪市内から遠く感じるが付近には「ららぽーと和泉」や「ホテルルートイン大阪和泉」。「コストコ和泉」があつて結構便利、阪和自動車道のイン



1階事務所は10.5mの大スパン

ターチェンジからも近い。その地にナカザワ建販は本社機能を移す。

説明によると5年ほど前から中澤伸文会長が本社の移転を考え物件を物色していたという。社員も100名を超え倉庫も大きなものが必要だった。1年半ほど前にこの土地に巡り合った。会長の強い意志で「木造」、当初は倉庫も木造の予定だった。施主の意向は「木造で建てるが、お客様が木造建築だとは分からない、住宅感がない建物にしてほしい。若い人が働きたい事務所にしてほしい」。設計は「なら食と農の魅力

創造国際大学校」を設計した徳岡設計。施工はレビック(株)。

施工のレビック(株)は昨年7月20日に設立されたナカザワ建販の関連会社。社長の佐々木博氏(ナカザワ建販専務)は「住宅以外の分野も視野に立ち上げました。所有資格も多岐にわたり、公共建築にも挑戦したい」と述べ「僕たちはゼネコンではなく木コン(モクコン)、木造中心のコントラクターです。(モクコン)は現在、商標登録申請中です」と意欲を示した。

国産カラマツを112㎡使用。壁も間仕切りもない100人超の職員を収容する1階事務所のスパンは10・5m。SMB建材が開発したサミットH R工法(木質二方向ラーメン構造)が威力を発揮した。室内にはふんだんに木材が使われ、光が入って心地よく社員が働ける空間が完成した。